



いわて医療通信【薬の服用について】

3. 薬と腎臓の関係

であっても、体調の変化によって副作用が起こりやすくなる場合があります。たとえば、風邪などの感染症にか

さて、あなたが30代の時と80代の時で、同じ量の薬を飲んだ場合、副作用の起こりやすさは同じでしょうか。答えは「NO」です。30代に比べて80代の方が副作用を起こしやすと言えます。

少なくとも1%ずつ低下しています(高血圧や糖尿病があるときさらに低下します)。例えば、30代を100%とすると、80代には50%まで腎臓の働きは低下すると考えられます。

種類によって違いはあります

これは加齢により生理機能が低下することが主な原因です。特に、体内の老廃物を尿中に排泄する役割をもつ腎臓が大きく影響します。腎臓は腰のやや上あたりに左右1個ずつある、こぶし大の大きさの重要な臓器です。腎臓の働きは若いときが100%とすれば、年々

ますが、体内に入ったほとんどの薬は老廃物と同じように腎臓から尿中に排泄されます。腎臓の働きが低下すると、薬が尿中に排泄されるまで時間がかかり、薬が体内に長く留まります。このため、腎臓の働きが低下した高齢者では副作用が起こりやすくなります。

適切な薬の量というのは、体の大きさのみで決まるものではありません。薬の効果や副作用は腎臓の働きによって大きく影響を受けますので、腎臓の働きがどの程度かということも薬の量を定める上で重要な要素になります。医療機関の処方薬は、医師や薬剤師によって腎臓の働き、特殊な腎臓の病気(透析の有無)などを考慮して、処方・調剤されています。副作用を起こさないためには、指示された用法・用量を守ることが大切です。

かると、下痢や嘔吐による脱水が原因で急速に腎機能を悪化させ、普段よりも薬が効きすぎて、副作用が現れることがあります。このような現象は、特に高齢者や腎臓の働きが低下している人で顕著に現れます。副作用が現れた場合には適切な対応を迅速にすることが重要です。自分の病気を知り、使用する薬の名前を覚えておくと、医療機関に相談した際に受診を勧めやすく、救急活動に役立ちます。

岩手医科大学附属病院薬剤部

普段から飲んでいる薬

二瓶哲